

令和4年度泉州圏域在院患者調査報告（概要）

I 調査概要

○目的

本調査は、府内（政令指定都市を含む）の精神科病床を有する医療機関における入院患者の状況を明らかにし、大阪府、大阪市、堺市の障がい福祉施策の基礎資料とする。

○方法

【調査の対象】

令和4年6月30日現在、府内（政令指定都市を含む）の精神科病床を有する医療機関に入院中の者

【実施方法】

府内（政令指定都市を含む）の精神科病床を有する医療機関（60病院）に調査票を送付し、従事者からの回答（14,992票）を得た。

II 泉州圏域の状況

1 精神科病院数、病床数及び入院者数

府内にある精神科病院、入院者の状況は、表1のとおりである。

泉州圏域では、精神科病院数が17、病床数が6,237、入院者数が5,231人で、府内他圏域よりも多い状況にある。

表1 二次医療圏域別精神科病床数及び入院者数〔令和4年6月30日現在〕

医療圏	医療機関数	精神科 許可病床数	入院者数
豊能	6	1,987	1,684
三島	7	2,302	1,998
北河内	9	1,707	1,339
中河内	4	1,458	1,274
南河内	6	1,522	1,227
泉州	17	6,237	5,231
大阪市	6	223	161
堺市	5	2,537	2,078
計	60	17,973	14,992

2-1 入院者の受入れ状況

泉州圏域にある精神科病院では、圏域外から2,217人の入院者を受入れており、他圏域と比べて、圏域外からの入院需要に対応している。

表2-1 病院所在地 × 入院者住所地（圏域内・圏域外）

	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	泉州	大阪市	堺市
圏域内 での入院	860 51.1%	1,124 56.3%	877 65.5%	738 57.9%	607 49.5%	3,014 57.6%	110 68.3%	921 44.3%
圏域外 からの入院	824 48.9%	874 43.7%	462 34.5%	536 42.1%	620 50.5%	2,217 42.4%	51 31.7%	1,157 55.7%
総計	1,684 100.0%	1,998 100.0%	1,339 100.0%	1,274 100.0%	1,227 100.0%	5,231 100.0%	161 100.0%	2,078 100.0%

2-2 入院者の住所地

泉州圏域の住民の入院者の約 9 割は泉州圏域にある精神科病院に入院している。他圏域と比べて、圏域内の精神科病院に入院する割合が高くなっている。

表 2-2 入院者住所地 × 病院所在地（圏域内・圏域外）

	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	泉州	大阪市	堺市	
圏域内	860	1,124	877	738	607	3,014	110	921	
	71.2%	87.5%	68.2%	67.0%	57.4%	94.8%	3.5%	63.2%	
圏域外	348	160	408	363	451	165	3,017	536	
	28.8%	12.5%	31.8%	33.0%	42.6%	5.2%	96.5%	36.8%	
総計	1,208	1,284	1,285	1,101	1,058	3,179	3,127	1,457	
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

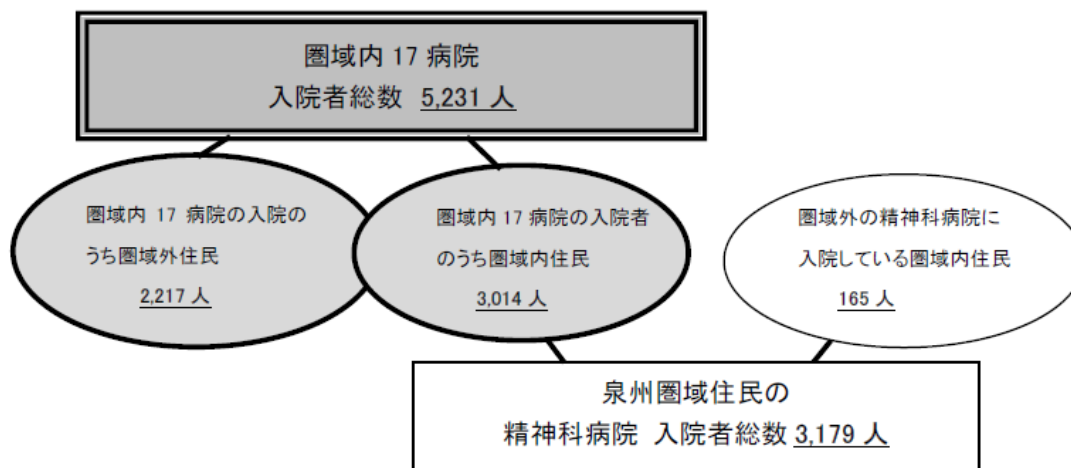


図 1 泉州圏域の精神科病院入院者の状況

3 年齢別（65 歳未満・65 歳以上）

泉州圏域にある精神科病院に入院している「65 歳以上」の群が、他圏域に比べて、割合が高くなっている。

表 3 年齢別（65 歳未満・65 歳以上） × 圏域別

	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	泉州	大阪市	堺市	合計
65歳未満	689	703	645	601	526	1,705	123	943	5,935
	40.9%	35.2%	48.2%	47.2%	42.9%	32.6%	76.4%	45.4%	39.6%
65歳以上	995	1,295	694	673	701	3,526	38	1,135	9,057
	59.1%	64.8%	51.8%	52.8%	57.1%	67.4%	23.6%	54.6%	60.4%
総計	1,684	1,998	1,339	1,274	1,227	5,231	161	2,078	14,992
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

4 在院期間別（1年未満・1年以上）

泉州圏域にある精神科病院に入院している「在院期間1年以上」の群が、他圏域と比べて、割合が高くなっている。

表4 在院期間別（1年未満・1年以上） × 圏域別

	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	泉州	大阪市	堺市	合計
1年未満	671	884	609	707	470	1,722	160	1,005	6,228
	39.8%	44.2%	45.5%	55.5%	38.3%	32.9%	99.4%	48.4%	41.5%
1年以上	1,013	1,114	730	567	757	3,509	1	1,073	8,764
	60.2%	55.8%	54.5%	44.5%	61.7%	67.1%	0.6%	51.6%	58.5%
総計	1,684	1,998	1,339	1,274	1,227	5,231	161	2,078	14,992
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

5 疾患別

泉州圏域にある精神科病院に入院している「認知症を含むF0」群と「F1」群が、他圏域と比べて、割合が高くなっている。

表5 疾患別 × 圏域別

	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	泉州	大阪市	堺市	合計
症状性を含む器質性精神障害 (F0)	356	642	286	297	260	1,846	14	534	4,235
	21.1%	32.1%	21.4%	23.3%	21.2%	35.3%	8.7%	25.7%	28.2%
精神作用物質使用による精神及び行動の障害 (F1)	39	90	47	20	54	482	4	77	813
	2.3%	4.5%	3.5%	1.6%	4.4%	9.2%	2.5%	3.7%	5.4%
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害 (F2)	1,024	932	755	681	690	2,146	56	1,045	7,329
	60.8%	46.6%	56.4%	53.5%	56.2%	41.0%	34.8%	50.3%	48.9%
気分(感情)障害 (F3)	177	174	134	161	142	443	38	264	1,533
	10.5%	8.7%	10.0%	12.6%	11.6%	8.5%	23.6%	12.7%	10.2%
神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害 (F4)	27	31	27	37	35	55	26	34	272
	1.6%	1.6%	2.0%	2.9%	2.9%	1.1%	16.1%	1.6%	1.8%
生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群 (F5)	0	3	1	0	3	4	17	5	33
	0.0%	0.2%	0.1%	0.0%	0.2%	0.1%	10.6%	0.2%	0.2%
成人のパーソナリティ及び行動の障害 (F6)	2	8	4	6	8	19	0	7	54
	0.1%	0.4%	0.3%	0.5%	0.7%	0.4%	0.0%	0.3%	0.4%
知的障害 (F7)	24	37	23	17	15	130	2	40	288
	1.4%	1.9%	1.7%	1.3%	1.2%	2.5%	1.2%	1.9%	1.9%
心理的発達の障害 (F8)	11	18	32	19	8	37	1	39	165
	0.7%	0.9%	2.4%	1.5%	0.7%	0.7%	0.6%	1.9%	1.1%
小児期及び青年期の通常発症する行動及び情緒の障害及び特定	7	4	8	3	2	3	3	13	43
	0.4%	0.2%	0.6%	0.2%	0.2%	0.1%	1.9%	0.6%	0.3%
てんかん(症状性を含む器質性障害(F0)に属さないもの)	7	6	1	10	1	18	0	5	48
	0.4%	0.3%	0.1%	0.8%	0.1%	0.3%	0.0%	0.2%	0.3%
その他・不明	10	53	21	23	9	48	0	15	179
	0.6%	2.7%	1.6%	1.8%	0.7%	0.9%	0.0%	0.7%	1.2%
総計	1,684	1,998	1,339	1,274	1,227	5,231	161	2,078	14,992
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

6 在院期間1年以上の入院者の退院阻害要因

泉州圏域の病院に入院している者の内、在院期間1年以上かつ症状（主症状）が落ち着き入院によらない形で治療ができるまで回復している者は230人である。その内、状態像ごとの退院阻害要因の有無は表6-1のとおりであった。

表6-1 退院阻害要因の有無 × 状態像

	寛解・院内寛解		軽度～最重度		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
退院阻害要因がある	68	89.5%	149	96.8%	217	94.3%
退院阻害要因はない	8	10.5%	5	3.2%	13	5.7%
総計	76	100.0%	154	100.0%	230	100.0%

退院阻害要因の内容については、表6-2のとおりであった。状態像の「寛解・院内寛解」群では、「退院意欲が乏しい（30人、44.1%）」「現実認識が乏しい（24人、35.3%）」「家族が退院に反対している（23人、33.8%）」の割合が高く、「軽度～最重度」群では、「退院意欲が乏しい（73人、49.0%）」「退院による環境変化への不安が強い（66人、44.3%）」「家事（食事・洗濯・金銭管理など）ができない（66人、44.3%）」の割合が高かった。

表6-2 退院阻害要因の内容（複数回答） × 状態像

「割合」には退院阻害要因がある者（寛解・院内寛解=68、軽度～最重度149、計=217）に対する割合を表示しています

	寛解・院内寛解		軽度～最重度		計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
病状は落ち着いているが、ときどき不安定な病状が見られ、そのことが退院を阻害する要因になっている	17	25.0%	59	39.6%	76	35.0%
病識がなく通院服薬の中断が予測される	21	30.9%	49	32.9%	70	32.3%
反社会的行動が予測される	7	10.3%	4	2.7%	11	5.1%
退院意欲が乏しい	① 30	44.1%	① 73	49.0%	103	47.5%
現実認識が乏しい	② 24	35.3%	64	43.0%	88	40.6%
退院による環境変化への不安が強い	17	25.0%	② 66	44.3%	83	38.2%
援助者との対人関係がもてない	13	19.1%	9	6.0%	22	10.1%
家事（食事・洗濯・金銭管理など）ができない	20	29.4%	② 66	44.3%	86	39.6%
家族がいない、本人をサポートする機能が実質ない	14	20.6%	28	18.8%	42	19.4%
家族が退院に反対している	③ 23	33.8%	36	24.2%	59	27.2%
住まいの確保ができない	12	17.6%	54	36.2%	66	30.4%
生活費の確保ができない	4	5.9%	23	15.4%	27	12.4%
日常生活を支える制度がない	4	5.9%	8	5.4%	12	5.5%
救急診療体制がない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
退院に向けてサポートする人的資源が乏しい	6	8.8%	21	14.1%	27	12.4%
退院後サポート・マネジメントする人的資源が乏しい	9	13.2%	24	16.1%	33	15.2%
住所地と入院先の距離があり支援体制がとりにくい	3	4.4%	5	3.4%	8	3.7%
身体的機能や状態を原因としたADLの低下がある	8	11.8%	36	24.2%	44	20.3%
身体合併症の程度が重いなど身体面のフォローが必要であり、地域での生活が困難	1	1.5%	10	6.7%	11	5.1%
その他の退院阻害要因がある	3	4.4%	7	4.7%	10	4.6%